

P21

上顎前歯部に認められた線維性エプーリスの1例

○佐伯 桂, 村岡 宏祐*, 住吉 彩子,
牧 憲司

(九歯大・小児歯, *九歯大・クリクラ)

【目的】

エプーリスは、歯肉部に発生した良性の限局性腫瘤に対する総括的名称である。今回、我々は10歳8か月の女兒の上顎前歯部に発生した線維性エプーリスの経過良好な1例を経験したので報告する。

【症例】

初診時年齢：10歳8か月 女兒

主訴：歯茎が腫れたので診てほしい

既往歴：特記事項なし

家族歴：特記事項なし

現病歴：数日前、上顎前歯部口蓋側歯肉の腫脹を自覚した。痛みがなかったためしばらく様子を見ていたが、歯肉の状態が改善しないため当科を受診した。

現症

口腔内所見：上顎前歯部口蓋側歯肉に弾性軟、有茎性の腫瘤を認めた。

エックス線所見：上顎前歯部に限局する著しい歯槽骨吸収は認められなかった。

治療経過：プラークコントロールが不良であったため、しばらく洗浄を続けたが、症状が改善しないため、切除を行なった。

臨床診断：増殖性歯肉炎

病理組織学的診断：線維性エプーリス

切除後もプラークコントロールの徹底、洗浄を続けたところ、術後の経過は良好であった。

【考察】

エプーリスの多くは局所の炎症性刺激により発症する。本症例においてもプラークコントロールが不良であり、原因のひとつと考えられる。ただし患児は思春期初期であることから、ホルモンの調和障害も誘因となっている可能性がある。よって、今後、再発するようであれば、血液検査を行なう必要があると考えられる。

P22

下顎右側第二乳臼歯の埋伏を伴うエナメル上皮線維腫の1例

○木船崇, 増田啓次, 山座治義*, 小笠原貴子,
高山扶美子, 廣藤雄太*, 福本敏*

(九大病院・小児歯科, *九大・院・小児歯)

【目的】

E⁷の埋伏を伴うエナメル上皮線維腫の1例を経験したので経過を報告する。

【症例】

患児：初診時年齢4歳の女兒

主訴：E⁷の埋伏に対する精査・加療

既往歴・家族歴：特記事項なし

現病歴：2歳頃よりE⁷の未萌出が気になっていた。4歳時に前医を定期受診し、デンタルエックス線検査でE⁷の埋伏を指摘された。精査・加療のため当科を紹介され受診した。現症：Hellmanの歯齢はIIA期、E⁷は未萌出で周囲歯肉の腫脹・疼痛はなかった。パノラマエックス線写真では、E⁷の歯冠周囲に単胞性嚢胞様透過像を認め、5⁷の歯胚は認めなかった。これらの所見に加え、CT画像では、E⁷の歯冠近傍にわずかに不透過物を認めたが、周囲骨の破壊は認めなかった。

処置および経過：診断を確定するため生検した結果、エナメル上皮線維腫と診断した。エナメル上皮線維腫は放置すると病変の増大と周囲組織への浸潤が危惧されることから、当院顎口腔外科で病変の摘出とE⁷の抜歯、周囲骨を搔把し閉創した。術後8か月を経過した現時点で、病変の再発は認めず、経過観察を継続する方針である。

【考察】

エナメル上皮線維腫は、良性上皮間葉混合性歯原性腫瘍であるが、まれに再発や悪性転化する。このことから病変再発の有無の経過観察が重要で、小児期に発症したことからも病変に近接する永久歯を含めた歯列咬合の発育についても、手術侵襲の影響を考慮した経過観察が必要である。

【文献】

Chrcanovic BR, et al.: Ameloblastic fibroma and ameloblastic fibrosarcoma: A systematic review. J Oral Pathol Med, 47:315-325, 2018.